

# 小樽市収支改善プラン(令和元年度～7年度)に係る収支見通しの時点修正について

(令和元年11月作成)

## ○趣 旨

現在の財政状況をより現状に即した形で把握するために、「小樽市収支改善プラン」における令和元年度から7年度までの収支見通しについて、平成30年度決算及び令和元年度予算を踏まえて時点修正を行いました。

## ○収支見通し

### <推計の考え方>

- ・基本的に平成30年度決算及び令和元年度予算を勘案して推計
- ・現時点で収支に大きな影響を及ぼす制度改正については可能な限り反映し、その他の制度については、現行の制度が継続することを前提として推計

### <収支見通し(3定補正後で時点修正)>

(単位:百万円)

区分	H30 (決算)	R元 (3定後)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
一般財源	地方税	13,527	13,574	14,607	14,305	14,120	14,105	13,924	13,792
	譲与税・交付金	2,985	3,139	3,361	3,548	3,548	3,548	3,548	3,548
	地方交付税	15,669	15,736	14,653	14,698	14,581	14,746	14,797	14,604
	臨時財政対策債	1,610	1,315	1,303	1,303	1,303	1,303	1,303	1,303
	その他の一般財源	0	27	0	0	0	0	0	0
	計 A	33,791	33,791	33,924	33,854	33,552	33,702	33,572	33,247
特定財源・関係収入	分担金及び負担金、 使用料及び手数料	1,208	1,147	1,095	1,095	1,095	1,095	1,095	1,095
	国・道支出金	14,421	15,570	15,587	15,536	15,185	15,240	15,064	15,279
	財産収入、寄附金	262	67	47	47	47	47	47	47
	繰入金(基金)	193	194	129	129	129	129	129	129
	諸収入	2,703	3,490	2,708	2,688	2,669	2,653	2,638	2,636
	繰越金 (前年度剰余金のうち積立分)	110	108	0	0	0	0	0	0
	地方債	1,048	2,593	3,260	2,077	1,750	1,996	1,714	1,495
	その他の特定財源・関係収入	17	14	14	14	14	14	14	14
計 B	19,962	23,183	22,840	21,586	20,889	21,174	20,701	20,695	
歳入合計 ① (A+B)	53,753	56,974	56,764	55,440	54,441	54,876	54,273	53,942	
義務的経費	人件費	9,257	9,571	10,020	9,903	9,815	9,794	10,054	9,958
	扶助費	17,207	18,178	18,200	18,200	18,200	18,200	18,200	18,200
	公債費	5,218	5,019	4,925	4,789	4,637	4,690	4,701	4,548
	計 C	31,682	32,768	33,145	32,892	32,652	32,684	32,955	32,706
補助費等	5,472	6,703	5,090	4,787	4,722	4,762	4,682	4,628	
普通建設事業費	1,304	3,349	4,126	2,891	2,251	2,586	2,166	1,999	
投資及び出資金、貸付金	2,209	2,320	2,285	2,265	2,246	2,230	2,215	2,213	
物件費、維持補修費、積立金	6,585	7,037	6,525	6,483	6,464	6,382	6,374	6,403	
繰入金	6,955	7,074	6,983	7,004	6,981	6,940	6,904	6,905	
歳出合計 ②	54,207	59,251	58,154	56,322	55,316	55,584	55,296	54,854	
繰越一般財源 ③	10								
差引 ④=①-②-③	▲ 464	▲ 2,277	▲ 1,390	▲ 882	▲ 875	▲ 708	▲ 1,023	▲ 912	
財源対策 ⑤	680	2,277	1,390	10	0	0	0	0	
内訳	財政調整基金繰入金	300	1,956	1,175	10	0	0	0	0
	過疎債ソフト	216	213	215	0	0	0	0	0
	退職手当債	53	0	0	0	0	0	0	0
	繰越金 (前年度剰余金のうち積立除く)	111	108	0	0	0	0	0	0
財源対策後収支 ⑥=④+⑤	216	0	0	▲ 872	▲ 875	▲ 708	▲ 1,023	▲ 912	

### 財政調整基金

区分	H30 (決算)	R元 (3定後)	R2	R3	R4	R5	R6	R7
繰入額	0	1,956	1,175	10	0	0	0	0
年度末残高見込	3,033	1,185	10	0	0	0	0	0

### ＜収支見直しにおいて時点修正した点（主なもの）＞

- ・ 地方税の見込みについて、近年の個人市民税及び固定資産税の堅調な推移を勘案して再試算
- ・ 人件費の見込みについて、再任用職員の配置状況等を勘案して再試算  
※会計年度任用職員の制度改正に伴い、令和2年度から臨時職員賃金約2億円を物件費から人件費に分類
- ・ 扶助費については、令和元年度予算をベースに現行制度が継続するものとして再試算
- ・ 補助費等の見込みについて、直近の実績及び制度改正等を勘案して再試算
- ・ 普通建設事業費については、各部からの事業計画等を勘案して再試算
- ・ 公債費については、平成30年度までの既借入分の償還予定額をベースに、令和元年度以降の新規借入分に係る償還見込み額を加算して再試算  
※建設事業費は現時点で判明しているものについて試算を行っており、現行の過疎地域自立促進特別措置法の期限が2年度であることから、過疎債についても2年度で終了することを前提として積算しています

### ○収支改善に向けて

- ・ 収支見直しの時点修正を行った結果、単年度収支において前回収支見直し（H30.11）に比べ令和3年度以降約6千万円～3億円の収支改善が見込まれる。しかしながら、財源対策後の収支において令和3年度以降約7～10億円の財源不足額が見込まれることから、依然として厳しい財政状況が予想されます。
- ・ 今後、本市では本年度に策定された「第7次小樽市総合計画基本計画」の施策について、本市の行政課題を十分に把握した上で、取組を進める必要があります。
- ・ 本市の厳しい財政状況と今後必要とされる財政需要を考慮すると、「小樽市収支改善プラン」に掲げる取組を着実に推進するだけでなく、既存の事務事業の見直しを早急かつ具体的に進め、収支改善プランにおける「収支改善取組後の収支の黒字化」及び、それぞれの年度において発生する財政需要に柔軟に対応するための「財政調整基金の確保」という二つの目標の達成を、成し遂げなければなりません。